

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401772
法人名	有限会社 グループホーム梅の木
事業所名	グループホーム 梅の木
所在地	〒859-1502 長崎県南島原市深江町乙1452 (電話) 0957-72-5198

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月13日

【情報提供票より】(H20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 11人, 非常勤 3人, 常勤換算 3.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000~6,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.1歳	最低	78歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・上田歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑の山々に囲まれ豊富な自然の環境の中に、広い敷地を有して当ホームは立地している。鳥の鳴き声が聞こえ、静かで穏やかな暮らしがここにはある。「介護は真心。家族を支えることで入居者も喜んでくれる。苦労は絶えないが、みんなが喜んでくれたらそれだけで充分。」と語る施設長の言葉が印象深い。家族と共に入居者を支えていきたいと思う気持ちは全職員が共有しており、入居者の姿から居心地の良さが理解できる。外部評価を年に一度の楽しみとし、課題の抽出をホームを一新する為の一端として捉えている。施設長が自ら資格取得の為の勉学に励み、向上意欲が高く、今後さらなる活躍を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の結果を踏まえ、評価で見出された課題について今年度はシートを用いて改善計画を立て、職員全員に伝えその実施に取り組んでいる。「職員を育てる取り組み」については、外部研修参加後の報告書を作成し共有化を図るよう改善され、「災害対策」については、食料品等の備蓄整備をさらに強化している。「居心地よく過ごせる居室の配慮」については、家族と共に再考し検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回と同様に、自己評価用紙を職員全員に配布し記入してもらい、一連の過程を全員で取り組むことによりサービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>町内会代表や行政担当者、家族代表を交え、2ヶ月毎に開催し、ホームでの行事や利用状況を伝え、現状報告等を行っている。しかし、メンバーから出された貴重な意見や提言等について、会議内で終結するに留まっている懸念がある。会議を定期的に行うことに大変な苦労があると思われるが、議事録を見る限り質疑応答の記載がなく、会議で出された意見の反映が推量できない。今後は職員参加を含め、さらに会議を充実したものにして運営に活かしていけることが望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用料の支払いで毎月面会のある家族がほとんどで、月に1回の家族面会を大事な日と捉え、施設長が必ず対応するように努めており、その際に家族の意見等を傾聴しよう心がけている。常々家族とのコミュニケーションを図っており、「よろしくお願ひします」とあまり意見はないが、互いに相談しやすい関係を築いている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>施設長自身が地元住民であり、地域との交流がごく自然に行われている。野菜などホームでは食べきれないほど多くいただくことがあり、地域の方へもおすそ分けし、お礼の電話をいただくこともある。産業祭などの地域行事へは、なるべく多くの入居者と共に参加するように努めている。また、地域の方で介護のことであれば相談にのり助言等を行ったり、災害時の協力を要請するなど、相互関係が確立している。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設長をはじめ職員全員の想いを込め「人格尊重・真心・健康で長生き人生・自由」の4つを柱に置き、独自の理念をつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護は真心であり、家族が喜ぶことが即ち入居者の喜びであるというホームの想いがやりがいにもつながっている。理念をホーム内の目に付く場所に掲げ日々立ち返り、真心で接し、人格を尊重した支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長自身が地元住民であり、地域との交流がごく自然に行われている。野菜などホームでは食べきれないほど多くいただくことがあり、地域の方へもおすそ分けし、お礼の電話をいただくこともある。産業祭などの地域行事へは、なるべく多くの入居者と共に参加するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、サービスの質の向上に努めている。また外部評価の結果を踏まえ、今年度より改善計画シートを作成し、職員全員に伝えその実施に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会代表や行政担当者、家族代表を交え、2ヶ月毎(第4木曜日)に開催し、ホームでの行事や利用状況を伝え、現状報告等を行っている。しかし、会議で出された貴重な意見や提言等について、会議内で終結するに留まっている懸念がある。		会議を定期的に行うことに大変な苦勞があることも理解できるが、議事録を見る限り質疑応答の記載がなく、会議で出された意見の反映が推量できない。例えばユニット間で交代で職員も書記係として参加し、また毎回テーマを決めてメンバーより意見や情報をもらうなど、苦勞して開催するからには充実した会議にしていけることが望まれる。

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の定期的な開催により、顔馴染みの関係が構築されている。制度上のわからないことは率直に尋ね、担当者からも回答がある。また、公的扶助を利用している人もおられ、他の行政担当者の訪問もあり、協働関係が築けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いで毎月面会のある家族がほとんどで、その際に現状報告を行っている。そのほか随時電話でも報告している。さらにH21年度は4ヶ月毎に「梅の木便り」を手書きで作成し、家族へ届ける予定である。金銭管理については家族にお願いすることを基本としている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回の家族面会を大事な日と捉え、施設長が必ず対応するように努めており、その際に家族の意見等を傾聴するよう心がけている。常々家族とのコミュニケーションを図っており、「よろしく願います」とあまり意見はないが、互いに相談しやすい関係を築いている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット兼務の職員はいるが、異動は避け馴染みの関係を大切にしている。離職は避けられず、やむを得ず職員が交代する際は、施設長自ら現場で指導し、入居者へのダメージを防ぐよう努めている。新規採用の際は3ヶ月間の試用期間を設け、互いに納得の上で働けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部で実施される研修会等に参加し、知識や技術向上に取り組んでいる。今年度は研修会報告書の書式を整え、これを活用して情報の共有を図っている。しかし、内部での勉強会等の取り組みがなされていないのが現状である。		2ユニット合同で職員が一堂に会する機会を隔月程度は確保するように努められ、改善に向けた話し合いや、統一したケアに必要なカンファレンス等を含め、ホームの課題抽出や向上と職員のスキルアップに繋がる全体会議を実施し、記録に留めていかれるよう検討されることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケア研究会に加入しており、研修会に参加したり、意見交換会などで交流を深めている。また、他の事業所の職員を非常勤で雇用し、情報の入手ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者家族からの紹介で相談を受けることもある。まずは見学してもらい、状況に応じて入院先等を訪問し、本人や家族と面談して話を聴いている。困っている方はすべて支援したいという運営者の信念もあり、やむを得ず急な利用開始もあり得るが、職員と情報の共有を図り、なるべく早く馴染んでもらえるよう個々に合わせた工夫をしながら支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者が「ありがとう」という言葉をかけてくれることで、職員は改めて日々学ぶべきことがあるんだと実感している。ホームで挨拶を交わすことは当たり前のことだが、現代社会では薄れてきているものがあると感じる。人生の先輩と時間を共有しているからこそその貴重な経験をさせてもらっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の暮らしについては、本人や家族の話から『生活歴表』にまとめ、さらに日々の関わりの中から希望や意向をくみ取り、把握に努めている。『生活歴表』を入居前までに留めず、入居後のケアポイント等を記入し展開していかれるなど、さらに実践に即した記録になることに期待したい。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員で検討し、意見を出し合い、ケアマネージャーが本人の状況を総合的に勘案した上で計画を作成している。計画作成後は、家族の面会時に管理者が説明し、意見を聞いている。面会のタイミングが合わず、家族への説明が後回しになっているケースもあり、今後は介護計画書の送付も取り入れる予定である。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎にケアチェック表にて現状を把握し、モニタリングを行い、計画を見直している。日々の記録に介護目標を掲げ、計画にそった支援を実践し、見直しに活かしている。さらに目標に対する評価や反省を介護記録に表記するなど、見直しに反映しやすくする工夫に期待したい。</p>		

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者を支える家族も共に支えたいという想いを施設長は持っており、通院介助はもちろん、入院した場合は見舞いや洗濯等の支援、また重度化や終末期の支援に至るまで柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、通院受診については遠方の病院や身体的重度の方にも関わらずホームで対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	地元の方で終末期をホームで過ごしたいと希望され、家族や主治医と相談し最期の方針を共有しながら、6名ほど看取りの支援を行った経緯がある。今後も要望があれば、医療機関との密な連携体制を整えた上で、支援していく方針である。重度化については、家族や主治医と話し合いを繰り返しながら、在宅酸素や鼻腔栄養など重度に対応した支援を実践している。また、予備室があり、家族の宿泊も可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格尊重を理念の最初に掲げており、その言葉通りに対応している。耳が聞こえにくい入居者が多く、訪問当日、職員は、一つの動作をする度に、一人ひとりの耳元で優しく声かけされていた。記録等の個人情報についても大切に取り扱い、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人数不足は否めず、入居者の希望に必ずしもそった支援ができていたとは言い難いが、コミュニケーションを図り、一人ひとりのペースは把握しているので、可能な範囲で希望にそえるよう努めている。		

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者と一緒に食卓を囲み、職員はサイドに立ち介助しながらの食事風景であった。入居者はそれぞれのペースで食べられ、他者を思いやる会話も聞かれた。献立は、入居者の希望を採り入れ、赤飯や刺身などで変化をつけている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回曜日を設定している。身体的に重度の方にも対応できるようリフトや全身シャワー浴ベンチを整備している。本人の気分や体調、タイミング等に充分配慮し、入浴できない時には手浴や足浴、清拭等に変更し支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭の草取りや、清拭タオルを巻く前の伸ばしを得意とする方には率先して役割を担ってもらっている。テレビ視聴を楽しみにされている方は、寝る前までテレビ鑑賞しながら団らんの時間を過ごしている。そのほか、個々に好きなことや張り合いとなるような支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い庭の周辺や、近くのグラウンドへ気晴らしに散歩に出かけている。また個人的な買い物のほか、花火や花見、初市等の見学ドライブを計画し外出支援を行っている。通院で外出することが多く、通院が複数重なることがあり、車いす対応の車を購入予定である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる様々な弊害を、施設長をはじめ職員は認識しており、日中は施錠しないことを基本としているが、入浴対応時など見守りの体制が充分にとれない時は、やむを得ず玄関を施錠することもあるのが現状である。		鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねていくことが求められるが、同時に現状として玄関を施錠せざるを得ないことを家族等関係者に説明をし、書面で了解を得るよう取り組むことが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・避難訓練を年に2回実施し、地域への協力要請も行っている。災害に備え、食料品やポリタンク、携帯コンロ等準備しており、また入居者の個人情報もすぐに持ち出せるよう整備している。		

グループホーム 梅の木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については毎食チェックして健康状態と共に把握しており、変化がある場合は主治医に相談し、食事形態を工夫するなど対策を講じている。鼻腔栄養摂取の方もおられ、食事制限のある方についても同様に主治医に相談し、指示を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除が行き届いて清潔感があり、共用空間は広く、ユニットは天井も高く開放感がある。ソファや椅子が配置され、昼食後入居者は思い思いにくつろがれていた。壁にはイベント時の写真を掲示し、生活感や楽しみが持てるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの品々を持ち込んでもらうよう家族にも協力してもらっている。自他の所持品の区別がつかなかったり、寝たきり等でやや生活感に欠ける居室も見受けられるが、家族と相談した上で、個々に配慮している。		